

## 中学生の「税についての作文」



租税教育推進活動の一環として納税貯蓄組合総連合会並びに関係協力団体が中学生の「税についての作文」を募集し、川崎区・幸区の中学校から多数の作品が寄せられ、川崎南税務署長賞をはじめ各団体賞があり厳正な審査の結果、当川崎南法人会会長賞に川崎市立南河原中学校3年生、合原紗花さん、川崎市立川崎中学校3年生、今村始恩さん、川崎市立田島中学校3年生、大野凜音さんの3作品の作文が選ばれましたのでご紹介します。

### 「税のありがたさ」

川崎市立南河原中学校3年

合原 紗花

私は今まで税についてよく知りませんでした。自分が払っている税金という消費税くらいです。その消費税は何かを買うと付いていて、「税金をなくしてほしい。なんで払わなければいけないのだろう。」と思ったことがありました。そこで、税金がどのように使われているのかを調べてみました。

まず税金は私たちが毎日勉強をしている学校の校舎や、授業を受けるのに必要な教科書などは、すべて税金によってまかなわれていました。こうして当たり前のように毎日学校で勉強ができるのも、税金があるからなのだと思います。

次に私は少子高齢化について目を向けました。現在、日本は平均寿命が伸びているため高齢者が増えています。高齢者が増えると、税金が使われている年

金や医療、介護などに必要なお金が増えていくことになりそうです。しかし、生活を支える若い人が減ってきています。少子高齢化が進んでしまうと高齢者一人に対して若い人への負担が大きくなってしまいます。これ以上、国の借金を増やすわけにはいきません。なので今は若い人が中心となって一人一人税を納めるべきだと思います。

また税金は公共事業費の確保にも使われています。でこぼこな道路をなおしたり、橋の建設や災害復旧の整備など私たちの生活や安全を守るために使われていることが分かりました。ですが公共事業に反対している人がいます。主に「無駄な公共事業をするなら、もっと社会保障にお金を回して。」と多く聞きます。社会保障は本来に必要なと思います。今、安心して暮らせているのは公共事業が発達しているからです。安心安全な街をつくるには公共事業が必要だと思います。

もし、税金を払うことが嫌だからといって誰も払わなくな

てしまったら私たちが通っている学校に行けなくなってしまし、安心して暮らすこともできなくなってしまう。そう考えると税金は私たちにとても必要なものだと思います。

今は、この当たり前のよう暮らしさせている環境に感謝をしなければなりません。人と人が協力し、支え合って今があるのだなと思います。今後、社会はどうなっていくのかなど問題になっていることに目を向けていき、できるだけ税についてたくさん知っていくことが大切になっていくのではないかと思います。

私は、これからは時間を無駄にしないで勉強をしていきたいです。そして将来仕事に就くことができたときには、税金のおかげでたくさんの方が働いて少しくらいの貢献ができるような人になりたいです。

## 中学生の「税についての作文」

### 納税に対する疑問

川崎市立川崎中学校3年

今村 始恩

僕は、この作文を書くまで税について、あまり深く考えていなかったのですが、税金はどのようなメリットがあつて、どのような使い道があるのか、また、納める必要があるものなのかと、疑問に思いました。この作文を書くために、インターネットで調べたり、自分の親に税について聞いてみると、いろいろなのが分かってきて、税金の必要性を感じました。

税は大きく分けて、国に納める国税や、都道府県に納める地方税の2つがあり、その中でもさらに、消費税や相続税、所得税などと細かく分かれていることに驚きました。僕が一番身近に感じるのは、消費税です。消費税が導入されてから二十七年もの月日がたちますが、近い将来10%にまでひき上げられる予定です。消費税導入前は、どう

やってこの分の財源を確保していたのか疑問に思いました。すると、「少子高齢化」という大きな問題に直面していたのです。将来、自分ももらえるであろう年金のためと思えば、消費税10%の引き上げでも仕方ないことだと思つけれど、政治家や企業等の税金の無駄使いは、昔から問題になっているなかで、この取り締まりは強化されないと感じました。その反面、私たち国民に税金が重くのしかかってきているのは納得できないです。できれば、税金を上げる前に、税金の無駄取りを取り締まる法律を国民が納得するような形で表してほしいと思いました。

お父さんの給料からもいろいろな税金をひかれていますが、ただただひかれていくわけではなくて、その税金が僕たちのくらしのためや、道路や施設の建築などに使われていることがわかりました。

僕たち中学生は一人あたり約九十九万円、小学生は八十五万円、高校生は百万円もの税金が

## 7つの間違い探し



[作者紹介]  
神谷一郎 (かみや・いちろう) イラストレーター、デジタルイメージ会員、日本出版美術家連盟会員など。専修大法学部卒業後、漫画プロダクションを経て漫画家に。現在はフリーランスのイラスト

充てられています。もし、税金がなくなってしまうたら、この金額を各個人で負担すると思うと、大変な負担です。

納税は「国民の義務」であると同時に、国民の為に活用されるものであつて、私たちの生活を支えてくれているのは事実であり、国を動かしている財源でもあると思えました。使う僕たちも当たり前ではなく、手当ての意味をもう一度考え、認識することも大切なことだと思えました。その納税は、将来の僕たち世代が安心して、暮らせる老

後がむかえられるよう、納めていくことの大切さを次の代の人達にもきちんと伝えていくことが大変重要だと思えました。

自分たちの老後を支えてくれるのは、これから生まれてくる子供たちなのです。まずは、自分たちがやらなくてはいけないことを、しっかりと見つめていきたいです。

僕たち中学生は一人あたり約九十九万円、小学生は八十五万円、高校生は百万円もの税金が

## 中学生の「税についての作文」

### 「税金とわたしの関わり」

川崎市立田島中学校3年

大野 凜音

わたしは、いままで税金が嫌いでした。百円のものを買ったときにプラス八円を支払ったり、千円のものを買ったときには八十円を支払わなければいけないし、大人になると、払う税金の種類が増えます。給料の中から差し引かれる税金もあります。いろんなものに税金がかかっている、そのぶん値段も高くなるし、必要ないんじゃないかなというのがわたしの正直な気持ちでした。でも、自分で調べて税についての情報を集めました。そうしたら、自分の考えが間違っていたことに気がきました。なぜなら、わたしたちの払っている税金がすごく広い範囲で生活に生かされていることを知ったからです。税金がなくなるときのメリットは、買い物などをするとき税金のぶんの代金を払わなくていいということく小さなメリット

ですが、税金がなくなったときのデメリットは実に大きいと思われまます。例えば、税金がなくなると、お年寄りが年金をもらえなくなってしまう、自分で働いて稼がなければいけなくなったり、道路や下水道管が壊れてしまっても、直せずそのまま使い続けることになりまます。なので税金は非常に大切なものなのです。税金は医療費の負担や年金、生活保護費などに使われていて、病気をした人や老人などの困った人のために使われていることがわかったのです。税金はほかにも道路をつくったり、公園をつくったりといろいろなことにも使われているのがわかったのですが、わたしは「義務教育費」という項目に目をとめました。わたしたちが毎日勉強している学校の校舎や授業を受けているのに必要な教科書などは、すべて税金によってまかなわれていたのです。わたしはこれまで、税金を身近に感じたことはなかったし、悪いイメージしかもっていませんでした。これこそ、わたしたち

を支えてくれていたことに驚きました。いままで、どうやって学校が建てられているかなど、疑問に思ったことや注意を向けたことはなく、なんとなく聞いていただけのわたしたちにとっては、これが当たり前の感覚でした。友達と話したり、授業を受けたりする校舎があることも、それにつかう教科書も、電気や水道が使えることにもわたしたちは何の疑問ももたなかった。でも、その「当たり前」をつくっているのは「税金」のおかげです。毎日の

生活の暮らしの中ではなかなか気がつかないけれど、わたしたちの暮らしを支えてくれている。わたしたちが支払う税金。それが多くの人のちょっとした手助けになる。そして、自分も気付かないうちにいろんな人に支えられている。お互いに助け合うこと。それが「税金」だওয়ারことがわりました。こうしてわかった今、いつも見るレシートの「税」の文字がもったいないものには見えませんでした。

\*右の絵と左の絵には相違点が7か所あります。見つかりますか？(答えは7頁にあります)



レーターとして、雑誌・広告・WEB等で活躍中。第35回集英社YJ新人賞、第51回講談社漫画賞などを受賞。第4回デジタルアートコンテスト佳作。著作に「マニアックサイバー」(グラフィック社刊)。